学則別表３

制定日 2017 年 03 月 28 日
改正日 2025 年 03 月２７日
施行日 2025 年 04 月 01 日

岡山商科大学　学部　３つのポリシー

013

ディプロマ・ポリシー（DP）

1. 学位授与の基本方針

岡山商科大学では、「教育理念」において社会事象を的確に捉え、分析し、創造的に問題を解決することができ、かつ、心豊かさ（文化的知性）を有する人材の育成をすることと定めており、これを具現化するために、次に示す「学力の 3 要素」の 9 評価項目に関して学修目標を達成した学生に対して、客観的な評価をし、学位を授与する。

なお、本学では就職率 100％を目指して、各学部学科では DP の 9 評価項目の到達目標を達成し、社会で活躍できる人材を育成する。

その際、各学部学科において、次に示す DP の 9 評価項目に関して、履修すべき科目、単位、達成目標について示している。

2. DP で習得すべき「学力の3要素」の 9 評価項目

学力の3要素		事項	ディプロマ・ポリシー（DP）	
1	知識・技能	専門知識	DP1	法学、経済学、経営学、商学に関する専門知識の習得
		一般知識	DP2	社会科学の種々の問題を的確に捉える幅広い一般知識の習得
2	思考力・判断力・表現力	思考力	DP3	社会事象を論理的、創造的に思考する能力の習得
		判断力	DP4	社会事象を的確に捉える洞察力と判断力の習得
		会話・文章力	DP5	テーマ内容を的確に表現・伝達する日本語・外国語能力の習得
3	主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度（主体性・態度）	意欲・責任感	DP6	社会事象に積極的に参加しようとする意欲と責任感の習得
		協調性	DP7	多様な人々と協調して主体的に活動するリーダーシップの習得
		持続性	DP8	生涯にわたって学び続けようとする態度の習得
		倫理観	DP9	社会のルールを守る倫理観の習得

3. 履修すべき科目と単位

3.1 法学部 法学科

下記の条件を満たす学修成果を上げれば、卒業を認定し、学士の学位を授与する。

（1） 法学科で何ができるようになるのか。

① 知識・技能

法学、政治学の専門知識を習得する。
汎用性のある基礎的能力を習得する。

② 思考力・判断力・表現力

法律の条文を解釈して簡易な法律上の問題を解決することができる。

③ 主体性・態度

法律や政治、行政に関心を持ち、専門知識を活かして社会に貢献することができる。

（2） 特に学位授与に必要な評価基準、資格等

特別な評価基準、資格等の指定はしていない。

（3） DP の 9 評価項目と学位授与に必要な科目群及び単位数との関係

学位を授与されるためには、以下に示す科目の単位数と学力の3要素を満たしていること。

ディプロマ・ポリシー（DP）と科目群

学科：法学科

留意事項：
■ディプロマ・ポリシーを学力の3要素をふまえ9つの事項で具体的に示している。
■各学部学科において科目群で達成する9つの事項を具体的に示している。

学力の3要素		事項	ディプロマ・ポリシー（DP）		教養演習I・II	① 専門接続科目群	② 一般知識科目群	③ 社会力育成科目群 全学共通知識	③ 社会力育成科目群 コミュニケーション	③ 社会力育成科目群 心と体の健康	共通必修 法律学入門	共通必修 基礎演習I・II	共通必修 研究演習3・4年I・II	公務員コース 選択必修科目	公務員コース 自由選択科目 法学類	公務員コース 自由選択科目 経済学・経営学・商学	企業コース 選択必修科目	企業コース 自由選択科目 法学類	企業コース 自由選択科目 経済学・経営学・商学	その他	教養専門を問わず履修	左記の再掲 初年次教育	左記の再掲 能動的学修	左記の再掲 接続科目 地域社会	左記の再掲 接続科目 国際社会	左記の再掲 接続科目 産業界	左記の再掲 接続科目 大学院進学
				分類	一般教育科目						専門科目										教・専						
				単位数	25						88										11						
					4	2	4	8	4	3	2	4	8	12	40	4	12	30	14	14							
1	知識・技能	専門知識	DP1	法学に関する専門知識の習得							○	○	○	○	○		○	○				○		○			
		一般知識	DP2	社会科学の種々の問題を的確に捉える幅広い一般知識の習得	○	○	○	○	○			○				○			○			○					
2	思考力・判断力・表現力	思考力	DP3	社会事象を理論的、創造的に思考する能力の習得	○						○	○	○	○	○		○	○				○					
		判断力	DP4	社会事象を的確に捉える洞察力と判断力の習得	○							○	○	○	○		○	○					○	○			
		会話・文章力	DP5	テーマ内容を的確に表現・伝達する日本語・外国語能力の習得	○				○			○	○														
3	主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度（主体性・態度）	意欲・責任感	DP6	社会事象に積極的に参加しようとする意欲と責任感の習得	○							○	○										○	○			
		協調性	DP7	多様な人々と協調して主体的に活動するリーダーシップの習得	○					○		○	○									○					
		持続性	DP8	生涯にわたって学び続ようとする態度の習得	○					○		○	○									○					
		倫理観	DP9	社会のルールを守る倫理観の習得	○					○		○	○		○												

注意：必要単位数は一部簡略化して表示しています。詳細は履修細則で確認してください。

3.2 経済学部 経済学科

下記の条件を満たす学修成果を上げれば、卒業を認定し、学士の学位を授与する。

(1) 経済学科で何ができるようになるのか。

① 知識・技能

経済学に関する専門知識や技能のみならず、幅広く深い教養知識を習得する。

② 思考力・判断力・表現力

理論を踏まえて、私たちの直面する経済問題の解決策を作成することができる。

③ 主体性・態度

他人に共感できる感性をもち、社会と積極的にかかわっていく能力を身につけ、社会に貢献することができる。

(2) 特に学位授与に必要な評価基準、資格等

経済学に関する問題について論理的に洞察した卒業論文の提出が必修となっている。

(3) DP の 9 評価項目と学位授与に必要な科目群及び単位数との関係

学位を授与されるためには、以下に示す科目の単位数と学力の3要素を満たしていること。

ディプロマ・ポリシー(DP)と科目群

学科	経済学科	留意事項	■ディプロマ・ポリシーを学力の3要素をふまえ9つの事項で具体的に示している。 ■各学部学科において科目群で達成する9つの事項を具体的に示している。

学力の3要素		事項	ディプロマ・ポリシー(DP)		分類	一般教育科目						専門科目														教・専	左記の再掲						
					単位数	25						88														11							
						4	2	4	8	4	3	2	2	2	2	2	2	10	10	14	42											
					科目群	教養演習 Ⅰ・Ⅱ	① 専門接続科目群	② 一般知識科目群	③ 社会力育成科目群 全学共通知識	③ コミュニケーション	③ 心と体の健康	共通必修科目 経済学	数学演習	経済学演習	ミクロ	マクロ	基礎演習	研究演習 2・3・4年 Ⅰ・Ⅱ	選択必修科目 経済学類E群	経済学類F群	自由選択科目 経済学類	商・情報	会計学類	法学類	を問わず履修 一般教育専門	初年次教育	能動的学修	接続科目 地域社会	国際社会	産業界	大学院進学
1	知識・技能	専門知識	DP1	経済学に関する専門知識の習得		○						○		○	○	○	○	○	○	○	○					○	○	○	○	○	○	○
		一般知識	DP2	社会科学の種々の問題を的確に捉える幅広い一般知識の習得		○	○	○	○	○	○	○	○	○			○	○				○	○	○		○	○	○	○	○	○	○
2	思考力・判断力・表現力	思考力	DP3	社会事象を理論的、創造的に思考する能力の習得		○	○					○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			○	○	○	○	○	○	○
		判断力	DP4	社会事象を的確に捉える洞察力と判断力の習得		○	○	○				○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			○	○	○	○	○	○	○
		会話・文章力	DP5	テーマ内容を的確に表現・伝達する日本語・外国語能力の習得		○				○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			○	○	○	○	○	○	○
3	主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度(主体性・態度)	意欲・責任感	DP6	社会事象に積極的に参加しようとする意欲と責任感の習得		○			○								○	○								○	○			○		
		協調性	DP7	多様な人々と協調して主体的に活動するリーダーシップの習得		○		○		○							○	○								○	○					
		持続性	DP8	生涯にわたって学び続けようとする態度の習得		○											○	○								○	○					
		倫理観	DP9	社会のルールを守る倫理観の習得		○			○		○						○	○								○	○					

注意:必要単位数は一部簡略化して表示しています。詳細は履修細則で確認してください。

3.3 経営学部 経営学科

下記の条件を満たす学修成果を上げれば、卒業を認定し、学士の学位を授与する。

(1) 経営学科で何ができるようになるのか。

① 知識・技能

経営学、会計学、情報・メディア学の知識を習得すると同時に、それらを関連付けられるような幅広い一般知識を習得する。

② 思考力・判断力・表現力

会社や組織等に内在する問題に対して、的確にアプローチをして問題解決策を提案できる。

③ 主体性・態度

会社や組織に係わる問題を能動的に解決しようとする態度を身に付け、社会に貢献することができる。

(2) 特に学位授与に必要な評価基準、資格等

経営に関する問題について論理的に洞察した卒業論文の提出が必修となっている。

(3) DP の 9 評価項目と学位授与に必要な科目群及び単位数との関係

学位を授与されるためには、以下に示す科目の単位数と学力の3要素を満たしていること。

ディプロマ・ポリシー(DP)と科目群

学科	経営学科	留意事項	■ディプロマ・ポリシーを学力の3要素をふまえ9つの事項で具体的に示している。 ■各学部学科において科目群で達成する9つの事項を具体的に示している。

学力の3要素		事項	ディプロマ・ポリシー(DP)		分類	一般教育科目						専門科目					教・専	左記の再掲					
					単位数	21						82					21						
						4	2	2	6	4	3	2	2	12	38	28							
					科目群	I・II 教養演習	① 専門接続科目群	② 一般知識科目群	③ 社会力育成科目群 通知識	全学共シヨン	コミュニケーション	心と体の健康	共通必修科目 経営学	情報処理概論I	I・II 2・3・4年 研究演習	選択必修科目	自由選択科目	教養専門を問わず履修	初年次教育	能動的学修	接続科目 地域社会	国際社会	産業界	大学院進学
1	知識・技能	専門知識	DP1	経営学に関する専門知識の習得			○					○	○	○	○			○					
		一般知識	DP2	社会科学の種々の問題を的確に捉える幅広い一般知識の習得	○	○	○	○	○	○	○	○		○		○	○	○					
2	思考力・判断力・表現力	思考力	DP3	社会事象を理論的、創造的に思考する能力の習得	○	○						○	○	○	○					○		○	
		判断力	DP4	社会事象を的確に捉える洞察力と判断力の習得	○	○					○			○	○					○		○	
		会話・文章力	DP5	テーマ内容を的確に表現・伝達する日本語・外国語能力の習得	○					○				○	○			○			○		
3	主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度(主体性・態度)	意欲・責任感	DP6	社会事象に積極的に参加しようとする意欲と責任感の習得	○							○	○	○	○				○	○		○	
		協調性	DP7	多様な人々と協調して主体的に活動するリーダーシップの習得	○					○				○	○			○	○			○	
		持続性	DP8	生涯にわたって学び続けようとする態度の習得	○		○	○	○			○		○					○			○	
		倫理観	DP9	社会のルールを守る倫理観の習得	○						○		○	○	○				○	○		○	

注意:必要単位数は一部簡略化して表示しています。詳細は履修細則で確認してください。

3.4 経営学部 商学科

下記の条件を満たす学修成果を上げれば、卒業を認定し、学士の学位を授与する。

⑴ 商学科で何ができるようになるのか。

① 知識・技能

幅広い一般知識を基礎として、マーケティング、観光・地域開発、企画開発、ファイナンシャルプランニングの各分野に関する専門知識を、相互に関連付けながら習得する。

② 思考力・判断力・表現力

個人や企業、社会におけるビジネス上の課題に対し、専門的知見に基づいた解決策を作成することができる。

③ 主体性・態度

主にフィールドスタディによって、個人や企業、社会におけるビジネス上の課題の解決に向け、多様な人々と協力して取り組む態度を身に付け、社会に貢献することができる。

⑵ 特に学位授与に必要な評価基準、資格等

商学に関する問題について、理論的、実践的に洞察した卒業論文の提出が必修となっている。

ファイナンシャルプランニングコースでは、ファイナンシャルプランニングの資格に必要な各種金融商品、不動産、税制等の幅広い知識に基づき、個人金融資産の分析を行い、それを人生設計に合わせて、資金プランや運用プランを適切に提案することができる知識、技能を習得する。

⑶ DP の 9 評価項目と学位授与に必要な科目群及び単位数との関係

学位を授与されるためには、以下に示す科目の単位数と学力の3要素を満たしていること。

ディプロマ・ポリシー（DP）と科目群

学科	商学科	留意事項	■ディプロマ・ポリシーを学力の3要素をふまえ9つの事項で具体的に示している。 ■各学部学科において科目群で達成する9つの事項を具体的に示している。

学力の3要素		事項	ディプロマ・ポリシー（DP）		分類	一般教育科目						専門科目					教・専	左記の再掲					
					単位数	21						82					21						
						4	2	2	6	4	3	4	2	12	26	38				接続科目			
					科目群	教養演習 I・II	① 専門接続科目群	② 一般知識科目群	③ 社会力育成科目群 全学共通知識	③ コミュニケーション	③ 心と体の健康	共通必修科目 ビジネス概論 I・II	情報処理概論 I	研究演習 2・3・4年 I・II	選択必修科目	自由選択科目	教養専門を問わず履修	初年次教育	能動的学修	地域社会	国際社会	産業界	大学院進学
1	知識・技能	専門知識	DP1	商学に関する専門知識の習得			○					○	○	○	○	○	○	○					
		一般知識	DP2	社会科学の種々の問題を的確に捉える幅広い一般知識の習得	○	○	○	○	○	○				○		○	○	○					
2	思考力・判断力・表現力	思考力	DP3	社会事象を理論的、創造的に思考する能力の習得	○	○		○			○	○	○	○	○				○		○		
		判断力	DP4	社会事象を的確に捉える洞察力と判断力の習得	○					○				○	○	○			○		○		
		会話・文章力	DP5	テーマ内容を的確に表現・伝達する日本語・外国語能力の習得	○				○					○			○			○			
3	主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度（主体性・態度）	意欲・責任感	DP6	社会事象に積極的に参加しようとする意欲と責任感の習得	○									○				○	○		○		
		協調性	DP7	多様な人々と協調して主体的に活動するリーダーシップの習得	○				○	○				○			○	○	○		○		
		持続性	DP8	生涯にわたって学び続けようとする態度の習得	○		○	○	○					○				○	○		○		
		倫理観	DP9	社会のルールを守る倫理観の習得	○					○				○				○	○		○		

注意：必要単位数は一部簡略化して表示しています。詳細は履修細則で確認してください。

カリキュラム・ポリシー（CP）

1. 教育課程の基本方針

岡山商科大学では、「教育理念」に基づき社会事象を的確に捉え、分析し、創造的に問題を解決することができ、かつ、心豊かさ（文化的知性）を有する人材を育成するために、DP の 9 評価項目を考慮したカリキュラム、シラバス、評価方法を整備し、学生が学習できる体制を整えている。

なお、評価の指針（アセスメント・ポリシー）については、評価手段（試験、レポート、成果発表等）毎に、CP の 9 評価項目（〇を付けた項目）について学習目標比率（%）を示すこととする。

2. 教育目標

岡山商科大学の掲げる「教育目標」は、「学力の 3 要素」に基づき、DP の 9 評価項目を基準にして、CP の 9 評価項目を構成している。

⑴ 幅広い学習機会の提供（知識・技能）（思考力・判断力・表現力）（主体性・態度）

⑵ 専門学術の振興

鋭い洞察力と問題解決能力の修得 （知識・技能）（思考力・判断力・表現力）

⑶ 社会的人材の育成

社会での役割認識と積極的に取組む意識の理解（主体性・態度）

3. CP で学習すべき「学力の 3 要素」の 9 評価項目

CP の 9 評価項目では、DP の 9 評価項目の内容との一貫性を確保するために語尾の「習得」を「学習」にしている。

学力の3要素		事項	カリキュラム・ポリシー（CP）	
1	知識・技能	専門知識	CP1	法学、経済学、経営学、商学に関する専門知識の学習
		一般知識	CP2	社会科学の種々の問題を的確に捉える幅広い一般知識の学習
2	思考力・判断力・表現力	思考力	CP3	社会事象を論理的、創造的に思考する能力の学習
		判断力	CP4	社会事象を的確に捉える洞察力と判断力の学習
		会話・文章力	CP5	テーマ内容を的確に表現・伝達する日本語・外国語能力の学習
3	主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度（主体性・態度）	意欲・責任感	CP6	社会事象に積極的に参加しようとする意欲と責任感の学習
		協調性	CP7	多様な人々と協調して主体的に活動するリーダーシップの学習
		持続性	CP8	生涯にわたって学び続けようとする態度の学習
		倫理観	CP9	社会のルールを守る倫理観の学習

4. 岡山商科大学の教育の特色

4.1 法学部　法学科

(1) 特色ある科目構成

法学科では、法学や政治学の専門知識を習得し、これらの専門知識を活かして主体的に社会に貢献することができる人材を育成することを目標としている。そのために、以下の科目と単位数を修得することを必要とする。

① 一般教育科目

特定の知識に偏ることなく、総合的な知識（一般知識）を身につけ、バランスのとれた思考能力や協調性や倫理性を養うために、一般教育科目群から 25 単位（うち必修科目 8 単位と選択必修科目 17 単位）以上を修得すること。

このうち、必修科目は、「教養演習（Ⅰ・Ⅱ）」「データ分析」「キャリア形成論」である。（表現力、意欲・責任感、倫理観）

② 専門科目

法学、政治学に関する専門的な知識や技能を習得するために、設定している専門科目から 88 単位（うち共通必修科目 14 単位、選択必修科目 12 単位）以上を修得すること。（専門知識）

③ 演習科目

表現力やコミュニケーション能力の育成、並びに大学生としての基礎的な知識と基本的な学習能力の習得を目指し、1 年次から必修科目として設置している演習科目（教養演習（Ⅰ・Ⅱ）、基礎演習（Ⅰ・Ⅱ）、研究演習 3 年（Ⅰ・Ⅱ）、研究演習 4 年（Ⅰ・Ⅱ））16 単位を修得すること。（思考力、判断力）、（意欲・責任感、協調性、持続性、倫理観）

④ 初年次教育科目

(a) 教養演習

初年次 1 年間を通して、文章を読み理解する力、表現する力、要約する力等を養い、大学での学習の仕方を修得する。また、集団による討論を通じてプレゼンテーション能力を養い、グループ学習を通じてコミュニケーション能力、責任感、協調性を養っている。

(b) 法律学入門

はじめて法律学を学習する学生のために、法律を学ぶ際に基礎となる事項を講義し、学生が、法律についての基礎的な用語を理解し、使いこなせるようにする。また歴史や経済学などの隣接学問分野との関係を知り、法律専門科目とあわせて、それらの分野の学修計画を自ら考えていく力を養っている。（専門知識、思考力、判断力）

⑤ 地域社会、国際社会、産業界等の社会との接続科目

(a) 警察と法

将来、警察官や消防官を目指す学生のための講義科目であり、警察学校の校長や、

警察署長等を務めた警察官 OB が講師を務め、警察官が日常行っている防犯活動や犯罪捜査等の実態について、法的根拠を踏まえて説明する。また現職の警察官や消防官をゲストスピーカーとして招き、警察官や消防官の日常生活や仕事のやりがい等について講義し、警察官や消防官になろうとする意欲を醸成している。(専門知識、意欲・責任感)

⑥ 大学院教育との接続科目

特になし。

⑦ 能動的学修の充実科目

「研究演習 4 年」の複数クラスでゼミ論文を執筆したり、グループで卒業研究を実施したりしていることをはじめとして、各学年配当の演習科目を通じて DP の 9 評価項目で掲げられている汎用的能力を養っている。

また、法学部の複数のゼミで、刑務所見学、裁判所見学等を行い、社会事象に積極的に参加しようとする意欲と責任感を養っている。

⑵ PDCA サイクル

教員各自の成績評価と学科、科目群での評価の在り方について示す。

① 教員個人での PDCA

各科目の評価は、教員各位で実施する。

② 科目群、学科、学部での PDCA

科目群、学科、学部で、合格率を含めて評価を実施する。

⑶ DP、CP の 9 評価項目と授業科目の特色を示すカリキュラムマップ

科目ごとのシラバスに授業の目的、到達目標(60 点を達成)、授業形態(講義、演習、実験、実習・実技)、授業方法(受動型、アクティブラーニング、フィールドスタディ、問題解決型、その他)と学習させたい CP の 9 評価項目の関係を示している。

また、特色ある教育内容については、初年次教育科目、接続科目(地域社会、国際社会、産業界、大学院進学)の項目を設け、該当に○印を付け示している。

① 育成する資質・能力(カリキュラムポリシーとの関連)について、それぞれの科目で学習させる主たる CP の 9 評価項目の評価の程度を%で表示している。

② 成績評価方法に記載した評価手段(試験、レポート、小テスト、成果発表等)ごとに、評価の程度を%で表示している。

4.2 経済学部　経済学科

(1)　特色ある科目構成と履修すべき科目

経済学科では、経済の基礎知識から経済学の理論及びその応用あるいは歴史などの専門的内容までを体系的に学び、経済全体に生じる問題を発見する力やその解決方法について考える力を身につけることを目標としている。そのために、経済学科では、以下の科目と単位数を修得することを必要とする。

① 一般教育科目

「考える力」の基盤となり、経済学について、専門的に学んでいくための基本的な知識として必要となる一般教育科目群から 25 単位(うち必修科目 10 単位と選択必修科目 15 単位)以上を修得すること。必修科目は、「教養演習(Ⅰ・Ⅱ)」、「経済学入門」、「データ分析」、「キャリア形成論」である。(一般知識)

② 専門科目

経済学に関する専門的な知識や技能を修得するために設定している専門科目群から 88 単位(うち必修科目 22 単位と選択必修科目 24 単位)以上を修得すること。(専門知識)

コア科目として一般教育科目(専門接続科目)の「経済学入門」と専門科目の「経済学」・「ミクロ経済学」・「マクロ経済学」の合計 8 単位を必修科目として履修し、単位を修得すること。(専門知識)

③ 演習科目

表現力やコミュニケーション能力の育成とともに、大学生としての基礎的な知識と基本的な学習能力の習得を目指し、1 年次から必修科目として設置している演習科目(教養演習(Ⅰ・Ⅱ)、基礎演習(2 年前期)、研究演習(2 年後期)、研究演習(3 年Ⅰ・Ⅱ)、研究演習(4 年Ⅰ・Ⅱ))16 単位を修得し、4 年次に卒業論文を作成すること。(思考力・判断力・表現力)、(意欲・責任感, 協調性, 持続性, 倫理観)

④ 初年次教育科目

学生の学びのスタイルを大学での「自主的な学び」へスムーズに適応できるように、また「教養演習(Ⅰ・Ⅱ)」を専門教育へ橋渡しするために基礎的な知識や能力をレベルアップできるように、「経済学演習」と「数学演習」を必修化している。

⑤ 地域社会、国際社会、産業界等の社会との接続科目

地域社会や国際社会との接続を意識し、地域づくりや産業振興等を中心とした講義「環境経済学」、「市民参画まちづくり実践論」や「アジア経済分析」等、また、金融機関への就職を意識し、外部講師が講義する「金融リテラシー講座(基礎編)」(一般教育科目)、「金融リテラシー講座(応用編)」(専門科目)等を用意している。

⑥ 大学院教育との接続科目

大学院との接続を意識し、経済理論(ミクロ経済学およびマクロ経済学)を中心とした講義「特別演習」を用意している。

⑦ 能動的学修の充実科目

「教養演習(Ⅰ・Ⅱ)」、「基礎演習」、「研究演習(2 年・3 年Ⅰ・Ⅱ・4 年Ⅰ・Ⅱ)」では、

それぞれ開催されるゼミ対抗プレゼンテーション大会への参加を通じて、能動的学修能力の向上が図れるようにしている。

⑵ PDCA サイクル

教員各自の成績評価と学科、科目群での評価の在り方について示す。

① 教員個人での PDCA

各科目の評価は、教員各位で実施する。

② 科目群、学科、学部での PDCA

科目群、学科、学部で、合格率を含めて評価を実施する。

⑶ DP、CP の 9 評価項目と授業科目の特色を示すカリキュラムマップ

科目ごとのシラバスに授業の目的、到達目標(60 点を達成)、授業形態(講義、演習、実験、実習・実技)、授業方法(受動型、アクティブラーニング、フィールドスタディ、問題解決型、その他)と学習させたい CP の 9 評価項目の関係を示している。

また、特色ある教育内容については、初年次教育科目、接続科目(地域社会、国際社会、産業界、大学院進学)の項目を設け、該当に○印を付け示している。

① 育成する資質・能力(カリキュラムポリシーとの関連)について、それぞれの科目で学習させる主たる CP の 9 評価項目の評価の程度を%で表示している。

② 成績評価方法に記載した評価手段(試験、レポート、小テスト、成果発表等)ごとに、評価の程度を%で表示している。

4.3 経営学部　経営学科

(1)　特色ある科目構成と履修すべき科目

経営学科は、経営、会計、情報・メディアの 3 コース制を敷いており、自分の興味関心に応じてそのコースの専門分野を学ぶことができる。

従来の会計コースとは別に 1 年次より会計学の学習を重点的に行い、より高度な会計の専門的能力の修得を促進するために会計専門コースを設置している。同コースでは、会計学に関する職業に関心を持たせ、会計専門コースでの学習を卒業後のキャリアにつなげることができるように、目的意識を明確にし学習意欲の向上を狙った「会計学基礎Ⅰ、Ⅱ」を設置している。

また、「岡山経営者論Ⅰ、Ⅱ」においては、地域で実際に活躍している経営者を招聘し講義を、「税理士による租税講座」（中国税理士会による寄付講座）においては、会計分野の職業専門家により講義を、実施することで実学教育を行っている。

なお、経営学科では、以下の科目と単位数を修得することを必要とする。

① 一般教育科目

「考える力」の基盤となり、経営学について専門的に学んでいくための基本的な一般知識として必要となる一般教育科目群から 21 単位（うち必修科目 8 単位と選択必修科目 13 単位）以上を修得すること。必修科目には、「教養演習（Ⅰ・Ⅱ）」、「データ分析」及び「キャリア形成論」がある。（一般知識）

② 専門科目

経営学に関する専門的な知識や技能を修得するために設定している専門科目群から 82 単位以上を修得すること。その内訳は、必修科目 16 単位、選択必修科目 38 単位、これら以外の自由選択科目が 28 単位となっている。（専門知識）

基礎的専門知識を習得するため設置されている共通必修科目としては、「経営学」、「情報処理概論Ⅰ」がある。これら 2 科目の合計が 4 単位、研究演習 2 年（Ⅰ・Ⅱ）、研究演習 3 年（Ⅰ・Ⅱ）、研究演習 4 年（Ⅰ・Ⅱ）が合計 12 単位、合わせて 16 単位を必修科目として履修し、単位を修得すること。（専門知識）

③ 演習科目

表現力やコミュニケーション能力の育成とともに、大学生として求められる基礎的な知識と学習能力の習得を目指し、1 年次から必修科目として「演習」を設置している。1 年次は「教養演習（Ⅰ・Ⅱ）」で、思考力・判断力・表現力，意欲・責任感，協調性，持続性，倫理観を身に着け、2 年次からの研究演習（Ⅰ・Ⅱ）では、専門を学び 4 年次に卒業論文を作成すること。（思考力・判断力・表現力）（意欲・態度，協調性，持続性，倫理観）

④ 初年次教育科目

大学における本格的な専門科目の学修にスムーズに入れるようにするため、レポートの書き方や資料の収集方法など大学で学ぶスキルを身に付ける「教養演習（Ⅰ・Ⅱ）」に加えて、専門科目についても初年次から履修できる科目を設定している。具体的には、「経営学」、「情報処理概論Ⅰ」などの共通必修科目、そして、「情報処理概論Ⅱ」、「簿記論Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ、Ⅴ、Ⅵ」、「会計学」「会計学基礎Ⅰ、Ⅱ」、「工業簿記Ⅰ、Ⅱ」、「原価計算論」、「マーケティング論Ⅰ、Ⅱ」などの選択必修科目がある。

⑤　地域社会，国際社会，産業界等の社会との接続科目

社会、産業界と連携を深める科目としては、（一社）岡山経済同友会の協力を得て、岡山県内の企業経営者自らが教鞭を執る「岡山経営者論Ⅰ、Ⅱ」を展開している。また、中国税理士会による寄付講座として「税理士による租税講座」を開講することで、会計学分野の専門職業に関する実務的知識の学習機会を提供している。

会計専門コースでは、会計学の知識を活用できる公務員である国税専門官に関する理解を深めるために税務署見学や講演会を実施している。さらに、旧・商学部や経営学部出身の税理士を組織化した「商税会」の協力を得て、会計学教育を拡充している。

⑥　大学院教育との接続科目

特別な科目は用意していない。

⑦　能動的学修の充実科目

「岡山経営者論Ⅰ、Ⅱ」等では、アクティブラーニング方式の講義を展開している。

また、会計専門コースでは、就職支援の一環として、税理士事務所インターンシップに 1 年生から参加できるようにしている。

⑵　PDCA サイクル

教員各自の成績評価と学科、科目群での評価の在り方について示す。

① 教員個人での PDCA

各科目の評価は、教員各位で実施する。

② 科目群、学科、学部での PDCA

科目群、学科、学部で、合格率を含めて評価を実施する。

⑶　DP、CP の 9 評価項目と授業科目の特色を示すカリキュラムマップ

科目ごとのシラバスに授業の目的、到達目標（60 点を達成）、授業形態（講義、演習、実験、実習・実技）、授業方法（受動型、アクティブラーニング、フィールドスタディ、問題解決型、その他）と学習させたい CP の 9 評価項目の関係を示している。

また、特色ある教育内容については、初年次教育科目、接続科目（地域社会、国際社会、産業界、大学院進学）の項目を設け、該当に○印を付け示している。

① 育成する資質・能力（カリキュラムポリシーとの関連）について、それぞれの科目で学習させる主たる CP の 9 評価項目の評価の程度を％で表示している。

② 成績評価方法に記載した評価手段（試験、レポート、小テスト、成果発表等）ごとに、評価の程度を％で表示している。

4.4 経営学部　商学科

(1)　特色ある科目構成と履修すべき科目

商学科では、ビジネスの専門知識や技能を習得し、産業界や地域振興に貢献できる人材の育成を目標としている。そのために、マーケティング、観光・地域開発、企画開発、ファイナンシャルプランニングの４コース制を敷き、実践力を養うためのフィールドスタディをはじめ、以下の科目と単位数を修得することを必要とする。

① 一般教育科目

「考える力」の基盤となり、商学について専門的に学んでいくための基本的な知識と社会参加や職業への意識、および語学、データ分析力など社会力を育成していくために必要となる一般教育科目群から 21 単位(うち必修科目 8 単位と選択必修科目 13 単位)以上を修得すること。必修科目には、「教養演習(Ⅰ・Ⅱ)」、「データ分析」及び「キャリア形成論」がある。(一般知識)(表現力)(意欲・責任感, 倫理観)

② 専門科目

商学に関する専門的な知識や技能を修得するために設定している専門科目群から 82 単位(うち必修科目 18 単位と選択必修科目 26 単位)以上を修得すること。(専門知識)

いずれのコースにおいても、ビジネスの基礎となる「ビジネス概論Ⅰ」、「ビジネス概論Ⅱ」、「情報処理概論Ⅰ」の合計 6 単位を必修科目として修得すること。(専門知識)

③ 演習科目

表現力やコミュニケーション能力の育成とともに、大学生としての基礎的な知識と基本的な学習能力の習得を目指し、1 年次から必修科目として設置している演習科目(教養演習(Ⅰ・Ⅱ)、研究演習 2 年(Ⅰ・Ⅱ)、研究演習 3 年(Ⅰ・Ⅱ)、研究演習 4 年(Ⅰ・Ⅱ))16 単位を修得し、4 年次に卒業論文を作成すること。(思考力・判断力・表現力)(意欲・責任感, 協調性, 持続性, 倫理観)

④ 初年次教育科目

大学における本格的な専門科目の学修にスムーズに入れるようにスタディスキルズ等を習得する「教養演習(Ⅰ・Ⅱ)」を必修としている。教養演習では習熟度クラス分けを行い、学生の特質に合わせた指導を実施している。また、専門科目についても初年次から履修できる科目を設定している。具体的には、「ビジネス概論Ⅰ、Ⅱ」、「情報処理概論Ⅰ」の共通必修科目、「マーケティング論Ⅰ、Ⅱ」、「流通システム論Ⅰ、Ⅱ」、「ネットビジネス論Ⅰ、Ⅱ」、「観光学概論」、「観光地理学」、「国際文化論」、「ライフプランニングと資金計画・リスク管理Ⅰ」、「金融資産運用・不動産Ⅰ」、「商学のための数学入門」、「簿記入門」等の選択必修科目がある。

⑤ 地域社会, 国際社会, 産業界等の社会との接続科目

地域社会や産業界等の接続を意識し、地域づくりや観光振興等の実践者を中心とした講義「観光・地域開発論特殊講義」や、適宜ゲストが講義をする「地域マーケティング」等を用意している。

⑥ 大学院教育との接続科目

特別な科目は用意していない。

⑦ 能動的学修の充実科目

「観光・地域実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」、「博物館実習」は、フィールドスタディ科目として国内外のフィールドに出かけ、能動的学修能力の向上が図れるようにしている。

（2）PDCA サイクル

教員各自の成績評価と学科、科目群での評価の在り方について示す。

① 教員個人での PDCA

各科目の評価は、教員各位で実施する。

② 科目群、学科、学部での PDCA

科目群、学科、学部で、合格率を含めて評価を実施する。

（3）DP、CP の 9 評価項目と授業科目の特色を示すカリキュラムマップ

科目ごとのシラバスに授業の目的、到達目標（60 点を達成）、授業形態（講義、演習、実験、実習・実技）、授業方法（受動型、アクティブラーニング、フィールドスタディ、問題解決型、その他）と学習させたい CP の 9 評価項目の関係を示している。

また、特色ある教育内容については、初年次教育科目、接続科目（地域社会、国際社会、産業界、大学院進学）の項目を設け、該当に○印を付け示している。

① 育成する資質・能力（カリキュラムポリシーとの関連）について、それぞれの科目で学習させる主たる CP の 9 評価項目の評価の程度を％で表示している。

② 成績評価方法に記載した評価手段（試験、レポート、小テスト、成果発表等）ごとに、評価の程度を％で表示している。

【カリキュラムマップ】

学科		教育課程の方針（CP）	岡山商科大学の教育理念に基づき社会事象を的確に捉え、分析し、創造的に問題を解決することができ、かつ、心豊かさ(文化的知性)を有する人材を、ディプロマポリシー(DP)を満たすよう育成する。

	科目名		授業の目的	到達目標（60点）	授業形態			授業方法			初年次教育	接続科目			学部・学科 カリキュラム・ポリシー(CP)								
															知識・技能		思考・判断・表現力			主体性・態度			
															CP1	CP2	CP3	CP4	CP5	CP6	CP7	CP8	CP9
					講義	演習	実習・実技	受動型	アクティブラーニング	フィールドスタディ	問題解決型	その他	大学院進学	産業界	国際社会 地域社会	専門知識	一般知識	思考力	判断力	会話・文章力	意欲・責任感	協調性	持続性	倫理観
1	○○○○○○	教員 ○○○○			●			●			●			●	学習目標比率（%）								
															40	5	10	10	15	5	5	5	5
2	○○○○○○	教員 ○○○○			●						●			●	学習目標比率（%）								
															10	25	15	15	5	5	15	5	5

4.5 一般教育科目

(1) 一般教育科目群および教育目的

本学の一般教育科目は、以下の 3 群に分けられ、教育目的に従って、本学の学生としての基礎知識を学習する。

(2) 科目群毎の教育目的

科目群	教育目的	単位数			
		法学部	経済学部	経営学部	
		法学科	経済学科	経営学科	商学科
一般教育科目	大学生活を通じて、学生一人一人が生涯にわたり人を豊かにするための「教養」と「社会人として必要な基礎知識・技能」を身に付けることを目的とする。 ただし、1, 2年次には、「専門教育を学ぶための基礎的な知識」の修得も目的とする。 これらの科目を一般教育科目といい、3つのポリシーに基づき、「学力の3要素」に従って、次の科目群で構成されている。	21単位	21単位	17単位	17単位
1. 専門接続科目群	専門科目に関する動機付けや、広く専門性を学ぶ科目とする。	2単位	2単位	2単位	2単位
2. 一般知識科目群	教育、文化、芸術、地理、歴史、自然について学ぶ科目とする。	4単位	4単位	2単位	2単位
3. 社会力育成科目群					
3.1 共通知識科目群	全学科共通に学ぶ科目とする。	8単位	8単位	6単位	6単位
3.2 コミュニケーション科目群	コミュニケーション能力を高める科目とする。	4単位	4単位	4単位	4単位
3.3 心と体の健康科目群	UNIVASに基づいた健康に関する知識を学ぶ科目とする。	3単位	3単位	3単位	3単位

4．6 教職課程

(1) 教育目的

教職課程は、中学校あるいは高等学校の教育職員（以下教職と略す）免許状取得のための課程である。新たな時代の教職には、教科ごとの専門的知識とともに、情報化や国際化の進展や学校教育に巡る諸問題に対応できる高度な資質能力と強固な意志が求められている。このため、将来教員になることを目指す人は、4つの学科ごとに設けられているこの課程を履修することが必要であり、通常の学科コース（主コース）に加え、副コースとして教職コースに所属し、教員としての資質を養うことを目的に教職担当教員の指導のもと学習を行う。

(2) 学部学科と取得できる教育職員免許状の種類および教科

学部	学科	免許状の種類	免許教科
法学部	法学科	中学校教諭一種免許状	社会
		高等学校教諭一種免許状	公民
経済学部	経済学科	中学校教諭一種免許状	社会
		高等学校教諭一種免許状	公民
経営学部	経営学科	高等学校教諭一種免許状	商業
			情報
	商学科	高等学校教諭一種免許状	商業

4.7 全学共通プログラム

(1)教育目的

全学共通プログラムは、所属学部・学科の教育プログラムのみならず、本学の他学部・学科の教育プログラムを履修修得することによって、その学修成果をより高めることを目的とする。全学共通プログラムとして、「金融総合教育プログラム」及び「データサイエンス・リテラシー(DSL)教育プログラム」を置く。

(2)金融総合教育プログラム

金融総合教育プログラムは、金融の基礎から実践的な学びまで金融に特化した特別プログラムであり、履修カリキュラムは、共通必修科目(民法概説、金融論、簿記論Ⅱ、証券市場論Ⅰ)、選択科目(4 学科提供の専門科目群)、及び、一般教育科目(金融リテラシー講座(基礎編))から成る。本プログラムの修了要件を満たした人には修了証書を授与する。

(3)データサイエンス・リテラシー(DSL)教育プログラム

DSL 教育プログラムは、数理・データサイエンス・AI に関する基礎的な能力(リテラシー)の修得に特化したプログラムであり、履修カリキュラムは、必修科目(データ分析、法と情報)、選択必修科目(情報と職業、情報技術論Ⅱ、情報社会と情報倫理)、及び、自由選択科目(3 学科提供の専門科目群)から成る。本プログラムの修了要件を満たした人には修了証書を授与する。

4.8　学生による評価

授業評価アンケート（年 2 回）を定期的に実施することにより、学生の視点から講義内容を評価し、全学教職員に状況を広報するとともに評価の高い教員を「GP 表彰」し、教育方法の発表を行っている。

（1） 授業評価アンケート

① アンケート項目

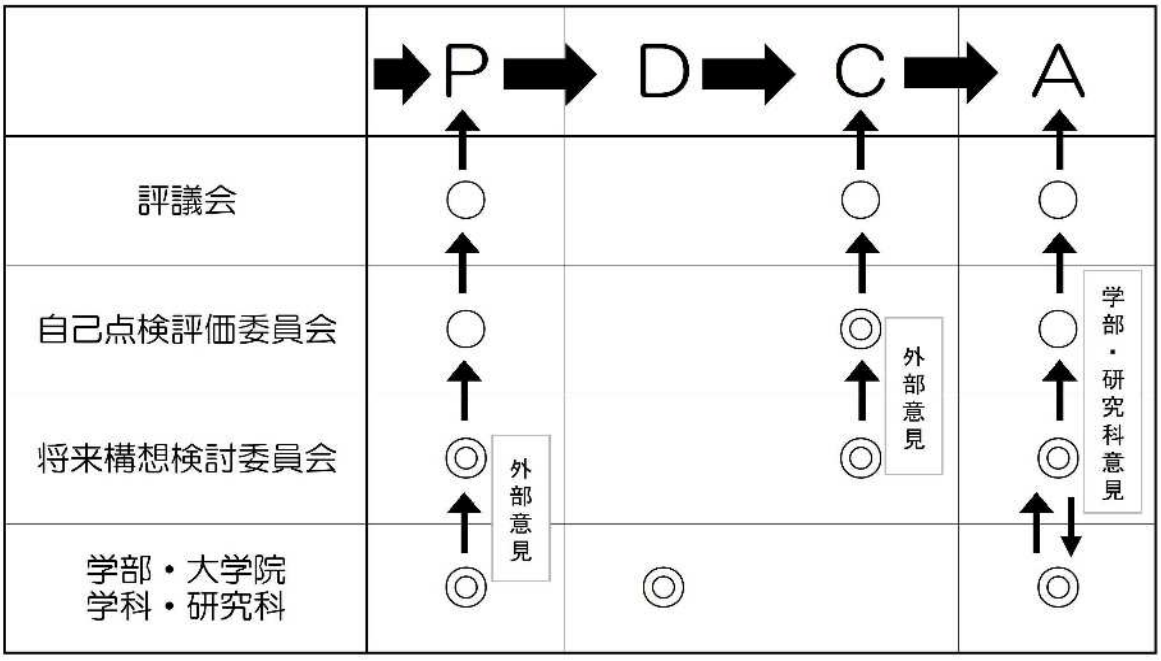
学生の学習時間、学習態度、教員の講義への取組態度等の 20 項目

② アンケートの集計

集計科目：教養科目、専門科目、演習科目
集計項目：科目群、学科、学部

（2） 全学的 PDCA サイクル

教育・研究・社会貢献活動の全学的PDCAサイクル



【外部意見】
①教育・研究協議会における外部有識者の意見
②保護者懇談会における保護者の意見
③高校訪問時の意見収集
④商業教育についての意見交換会における商業高校の意見
⑤文部科学省各種答申
⑥RB（リサーチブランディング）分野別研究成果のカリキュラムへの反映

アドミッション・ポリシー（AP）

1. 入学者受け入れの基本方針

岡山商科大学では、「教育理念」に示す社会事象を的確に捉え、分析し、創造的に問題を解決することができ、かつ、心豊かさ（文化的知性）を有する人材を育成することと定めており、これを具現化するために、高大連携アドバイザーによるきめ細かな情報伝達、各種特待生制度を設け、以下の入学試験により、意欲を持つと共に、多様な能力や目的を持った入学生を募集しています。

2. APにおける「学力の３要素」の９評価項目（求める学生像）

CPとの整合性を保つため、APの９評価項目は CPの９評価項目の説明内容の「学習」を入学学生の「学びたい」にしています。

学力の3要素		事項	アドミッション・ポリシー（AP）	
1	知識・技能	専門知識	AP1	法学、経済学、経営学、商学に関する専門知識を学びたい
		一般知識	AP2	社会科学の種々の問題を的確に捉える幅広い一般知識を学びたい
2	思考力・判断力・表現力	思考力	AP3	社会事象を論理的、創造的に思考する能力を学びたい
		判断力	AP4	社会事象を的確に捉える洞察力と判断力を学びたい
		会話・文章力	AP5	テーマ内容を的確に表現・伝達する日本語・外国語能力を学びたい
3	主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度（主体性・態度）	意欲・責任感	AP6	社会事象に積極的に参加しようとする意欲と責任感を学びたい
		協調性	AP7	多様な人々と協調して主体的に活動するリーダーシップを学びたい
		持続性	AP8	生涯にわたって学び続けようとする態度を学びたい
		倫理観	AP9	社会のルールを守る倫理観を学びたい

3. 学科別求める学生像

各学部学科では以下の人を求めます。

3.1 法学部 法学科

（1） 知識・技能

① 法学、政治学を学ぼうとする意欲のある人。

② 一般的な広い知識を学ぼうとする意欲のある人。

（2） 思考力・判断力・表現力

① 法律上の問題や紛争を解決する力を養おうとする意欲のある人。

（3） 主体性・態度

① 高い志をもって社会に貢献したいという意欲のある人。

3.2 経済学部 経済学科

（1） 知識・技能

① 本学部の教育を受けるのに必要な基礎学力を備えている人。

② 高等学校での正課・課外に主体的に取り組み、優れた実績をあげた人。

③ 数学的能力（情報関係基礎を含む）に長けている人。

（2） 思考力・判断力・表現力

① 地域社会や国際社会の活性化に取り組む意欲のある人。

② 社会が培った文化や社会の将来に関心を持っている人。

（3） 主体性・態度

① チャレンジ精神を持ち、困難なことに取り組む意欲ある人。

② 他者を尊重し、豊かな人間関係を作る意志のある人。

3.3 経営学部 経営学科

（1） 知識・技能

① 経営学、会計学、情報・メディア学に加え、それらを活用し社会に貢献できる人。

（2） 思考力・判断力・表現力

① 社会変化、とりわけビジネス現象に関心を持ち、経営的視点から洞察しようとする意欲のある人。

② できるだけ早く将来の進路を決定し、仕事を通じて自分が成長するだけではなく、社会に貢献しようとする強い意志を持つ人。

③ コミュニケーション能力の向上に努める人。

（3） 主体性・態度

① 自発的、創造的かつ、リーダーシップを発揮できる人材として成長しようとする強い意志を持つ人。

3.4 経営学部 商学科

3.4.1 商学科

（1） 知識・技能

① マーケティング、観光・地域開発、企画開発に関する知識・技能を学ぶ意欲のある人。

（2） 思考力・判断力・表現力

① 情報革新とグローバル化に対応したビジネスエキスパートに必要な思考力・判断力・表現力を養う意欲のある人。

（3） 主体性・態度

① 高い目標意識と将来の志望を持ち続け学ぶ意志のある人。

3.4.2 商学科 ファイナンシャルプランニングコース

（1） 知識・技能

① パーソナルファイナンスを中心として金融諸理論を勉強し、2級FP技能士・AFP等の資格取得を目指す人。

（2） 思考力・判断力・表現力

① 金融に関する諸問題、特に個人の資産形成に対して的確なアドバイスができる思考力・判断力・表現力を養う意欲のある人。

（3） 主体性・態度

① 高い目標意識と将来の志望を持ち続け学ぶ意志のある人。

4. 高等学校段階で習得・経験しておくことが望ましい事項

⑴ 知識・技能

① 高等学校の主要教科科目の教科書レベルの知識を習得している。

② スポーツ、音楽等の技能、特定分野の資格を習得している。

⑵ 思考力・判断力・表現力

① 物事を多面的に思考し、判断し、まとめて自己表現をした経験を有する。

⑶ 主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度

① 社会の諸問題に関心を持ち、主体的に他者とかかわり、対話を通して相互理解をする活動に参加した経験を有する。

5. 岡山商科大学の入試区分と AP との関係

入試区分の入試の目的、受験科目、AP の 9 評価項目との関係は、入試区分マップで示しています。

(1) 岡山商科大学入試区分マップ

岡山商科大学入試区分とAP10項目との関係

教育課程の基本方針(CP)	教育目標	受け入れの基本方針(AP)
岡山商科大学の教育理念に基づき社会事象を的確に捉え、分析し、創造的に問題を解決することができ、かつ、心豊かさ(文化的知性)を有する人材を、ディプロマポリシーを満たすよう育成する。	1. 幅広い学習機会の提供(知識・技能)(思考力・判断力・表現力) 2. 専門学術の振興 (知識・技能) 鋭い洞察力と問題解決能力の修得(思考力・判断力・表現力) 3. 社会的人材の育成 社会での役割認識と積極的に取組む意識の理解 (主体性・態度)	各学部・学科では以下の知識、能力を学ぼうとする人材を求めています。 1. 法学部法学科 基本的な法知識と解釈能力 2. 経済学部経済学科 経済に関する専門知識 3. 経営学部経営学科 企業という組織の中で貢献できる能力 4. 経営学部商学科 ビジネスにおける総合理解力と専門的実行力

入試区分		入試の特徴	出題内容等	学部・学科 アドミッション・ポリシー(AP)								
				知識・技能		思考・判断・表現力			主体性・態度			
				AP1	AP2	AP3	AP4	AP5	AP6	AP7	AP8	AP9
				専門知識	一般知識	思考力	判断力	会話・文章力	意欲・責任感	協調性	持続性	倫理観
1	【総合型選抜】	本学への強い志望動機を持って受験する者を対象とした入試です。 人間性や性格、柔軟性や常識の程度を判断するため、面接・口頭試問、レポート等により、思考力(AP3)、会話・文章力(AP5)、意欲・責任感(AP6)等を評価します。	全学科共通課題に対するレポート		○	○		○	○			
			面接・口頭試問		○	○	○	○	○	○		○
			志望理由書		○	○	○	○	○	○		
			調査書		○						○	
2	【学校推薦型選抜】 指定校推薦入試 指定校推薦編入学試験	本学指定校から推薦を受けた者を対象とした入試です。 人間性や性格、柔軟性や常識の程度を判断するため、面接・口頭試問、調査書等により、一般知識(AP2)、思考力(AP3)、会話・文章力(AP5)、意欲・責任感(AP6)等を評価します。	志望理由書		○	○	○	○	○			
			面接・口頭試問		○	○	○	○	○	○		○
			推薦書				○			○	○	○
			調査書		○							
3	【学校推薦型選抜】 専門能力推薦入試A (一般型) 専門能力推薦入試B (部活動スポーツ推薦型)	高等学校で学んだ秀でた知識、技能等を有する者のための入試です。 人間性や性格、柔軟性や常識の程度を判断するため、面接・口頭試問、調査書等により、専門知識(AP1)、意欲・責任感(AP6)等を評価します。	志望理由書		○	○	○	○	○			
			適性調査(現代の国語)(Aのみ)		○			○				
			面接・口頭試問(A・B共通)	○	○	○	○	○	○	○		○
			出願資格確認書	○								
			調査書		○						○	
4	【学校推薦型選抜】 一般公募制推薦入試	本学の適性調査により高校生として学んだ知識により受験する入試です。 適性調査により、主に基礎となる一般知識(AP2)を評価します。	適性調査(現代の国語)		○			○				
			適性調査(英語コミュニケーションⅠ・Ⅱ)		○							
			適性調査(数学Ⅰ・A)		○							
			適性調査(簿記)		○							
			調査書		○						○	
			推薦書				○			○	○	○
5	【一般選抜】 一般入試	得意な選択科目2科目により高校生として学んだ知識により受験する入試です。 筆記試験により、主に基礎となる一般知識(AP2)を評価します。 実用英語技能検定またはTOEICの資格取得者について、取得している級／スコアにより本学入試、英語の試験において取得した点数と比べ高い方の得点を選抜に用います。	英語コミュニケーションⅠ・Ⅱ		○							
			現代の国語		○			○				
			世界史探究		○							
			日本史探究		○							
			公共		○							
			数学Ⅰ・A		○							
			小論文		○	○		○				
			調査書		○						○	
			志望理由書		○	○	○	○	○			
			面接・口頭試問(後期日程のみ)		○	○	○	○	○	○		○
6	【一般選抜】 大学入学共通 テスト利用入試	大学入学共通テスト利用入試を受験した者のための入試です。 高校時代にどの程度の知識を身につけているかを判断するため、大学入学共通テストにより、主に基礎となる一般知識(AP2)を評価します。	国語、地理歴史・公民、数学、理科、情報、外国語(英語はリスニングを含む)、のうち、高得点の2教科		○							
7	編入学試験 (2年次、3年次)	本学の2年又は3年次に編入を希望する者のための入試です。 英語又は小論文、面接・口頭試問により、思考力(AP3)、会話・文章力(AP5)、意欲・責任感(AP6)等を評価します。	英語(又は小論文)		○							
			小論文(又は英語)	○	○	○		○				
			面接・口頭試問	○	○	○	○	○	○	○		○
			調査書		○						○	
			成績証明書		○							
			推薦書				○			○	○	○
8	社会人入学試験 (1年次、3年次)	社会人を対象とした入試です。 小論文、面接・口頭試問により、思考力(AP3)、会話・文章力(AP5)、意欲・責任感(AP6)等を評価します。	小論文	○	○	○		○				
			面接・口頭試問	○	○	○	○	○	○	○		○
			志望理由書		○	○	○	○	○			
			成績証明書		○							
9	私費外国人留学生 国内入学試験 (1年次、3年次)	外国の国籍を有し、外国において通常の課程による12年の学校教育を修了した者を対象とした入試です。日本語、基礎的英語により、基礎となる一般知識(AP2)を、小論文、面接・口頭試問で思考力(AP3)、会話・文章力(AP5)、意欲・責任感(AP6)等を評価します。	日本語 日本留学試験日本語200点以上で免除		○							
			基礎的英語		○							
			小論文		○	○		○				
			面接・口頭試問		○	○	○	○	○	○		○
			志望希望調査書		○	○	○	○	○			
			成績証明書		○							
			推薦書				○			○	○	○
10	私費外国人留学生 国内指定校推薦入試 (1年次)	本学指定校から推薦を受けた者で、外国の国籍を有し、外国において通常の課程による12年の学校教育を修了した者を対象とした入試です。 人間性や性格、柔軟性や常識の程度を判断するため、面接・口頭試問、調査書により、一般知識(AP2)、思考力(AP3)、会話・文章力(AP5)、意欲・責任感(AP6)等を評価します。	面接・口頭試問		○	○	○	○	○	○		○
			推薦書				○			○	○	○
			志望理由書		○	○	○	○	○			
			調査書		○						○	